

● 返り点の種類と使い方

①レ点（レ） 下の一字からすぐ上の一字に返って読む。

【例】登<sub>レ</sub>山。山に登る。（山に登る。）

②一二点（一・二・三…） 二字以上離れた下の字から上へ返って読む。

【例】登<sub>二</sub>富士山<sub>一</sub>。（富士山に登る。）

③上中下点（上・下、上・中・下） 一二点を必ず中に挟み、さらに上へ返って読む。

【例】有<sub>下</sub>登<sub>二</sub>富士山<sub>一</sub>者<sub>上</sub>。（富士山に登る者有り。）

④甲乙点（甲・乙・丙…） 上中下点で足りない場合に、上中下点を挟んで使用する。

⑤その他

(1) レ点は、一二点の「二」、上中下点の「上」のように、それぞれの種類の一番最初の記号とだけ併用できる。↓「レ」「上」「甲レ」

\*読むときは、レ点の下の字を先に読む。

\*「二レ」や「下レ」、「乙レ」はない。

【例】多<sub>二</sub>人<sub>一</sub>犯<sub>二</sub>罪<sub>一</sub>。（人の罪を犯すもの多し。）

【例】父<sub>下</sub>喜<sub>下</sub>子<sub>上</sub>受<sub>二</sub>試験<sub>一</sub>告<sub>上</sub>之<sub>下</sub>。（父子の試験に受かりて之を告ぐるを喜ぶ。）

(2) 下から二字以上の熟語に返る場合は、熟語の間に「一」を入れて、最初の字の左下に返り点をつける。

【例】教<sub>二</sub>育<sub>一</sub>子弟<sub>一</sub>。（子弟を教育す。）